インターナショナル・オープンデータ・デイ2015@横浜
（企画案 ver.6.0）

世界各国の都市で同時開催されるオープンデータの祭典「インターナショナル・オープンデータ・デイ」を大さん橋で開催します。横浜での開催は3回目となります。昨年は会場規模、参加人数ともに世界最大規模での開催となりました。今年も、オープンデータに関係する取り組みをする市民、学校、企業、行政関係者らが集い、ワークショップやまち歩き、セミナー、パネルディスカッション、展示などを行います。

今回は、これまでの横浜・神奈川におけるオープンデータ関連の活動を振り返りつつ、観光、交通、医療などの産業分野におけるオープンデータ、そして、文化、歴史など文化機関におけるオープンデータを考えることで、地域社会に必要なオープンデータの姿を模索し、今後の展望や課題を明らかにしていきます。また、各プログラムや交流会を通じて、交流の機会も提供します。

■開催概要

タイトル：「インターナショナル・オープンデータ・デイ2015@横浜 」
テーマ：オープンデータで「Do It Ourselves」な地域社会をつくろう（仮）
日時：2015年2月21日(土) 10:00〜18:45　終了後に懇親会あり
会場：CIQプラザ（横浜港大さん橋国際客船ターミナル）、周辺地域
参加費：資料代500円（学生無料）　　（交流会参加費 2,000円程度）
主催：横浜インターナショナルオープンデータデイ実行委員会（構成団体：横浜オープンデータソリューション発展委員会）
共催：横浜港大さん橋国際客船ターミナル指定管理者相鉄企業 株式会社
　　NPO法人リンクト・オープン・データ・イニシアティブ、Code for Kanagawa
協力：関東総合通信局（予定）
後援：総務省（申請予定）、経済産業省（申請予定）、神奈川県（申請予定）、横浜市経済局・政策局（申請予定）
　　一般社団法人リンクデータ、オープングラム・ジャパン、かながわオープンデータ推進地方議員研究会
事務局：NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ

■プログラム案
【セミナー・ワークショップ 10:30-12:20】

１．文化・芸術・歴史分野でのオープンデータの活用−１「WikipediaTown」

横浜市内の歴史遺産をテーマにアプリ街歩きワークショップ「WikipediaTown」を実施
　コーディネート：小林巌生
　協力：オープングラム・ジャパン、NII、ふるさと歴史財団（調整中）

2. 歴史・文化・防災等をテーマにしたAR街歩き

横浜市などのデータをベースにした市民によるデータ作りの紹介、アプリ紹介と街歩き
　コーディネート：上野直樹（東京都市大学） 藤村良弘
　協力：東京都市大学 上野研究室 ほか

3. LOCAL GOOD YOKOHAMA：エンジニア向けセミナー

オープンソースを使ったクラウドファンディング＋スキルマッチング基盤「GOTEO」の参加型システム開発の展開と、オープンデータ活用事例の紹介をします。
　登壇者候補：横浜コミュニティデザイン・ラボ、アクセンチュア
　講師：肥田野正輝（インフォラウンジ）、杉浦裕樹
　協力：アクセンチュア

【セミナー・ワークショップ 13:00-14:20】

1. 文化・芸術・歴史分野でのオープンデータの活用−２「Open GLAMディスカッション」

地域資産としての文化機関のオープンデータ（Open GLAM）を考えます。これまでの横浜市芸術文化振興財団の「アートLOD」の取り組みなどを踏まえ、今後の横浜・神奈川での文化・芸術・歴史分野などでのオープンデータの活用を検討します。

登壇者候補：生貝さん、大向一輝@NII、ふるさと歴史財団、横浜市芸術文化振興財団

コーディネーター：岡本真　　協力：オープングラムジャパン、NII、ふるさと歴史財団（調整中）

２．旧東海道アイデアソン・ハッカソンと今後の展望

2014年に神奈川県内で実施した「文化観光」「健康増進」そして「オープンデータの利活用」をテーマにした「旧東海道アイデアソン・ハッカソン」の報告と、今後の展開についてディスカッションを行います。

コーディネート：古川和年、宮寺、上野直樹（東京都市大学） 藤村良弘

協力：Code for Kanagawa、神奈川県、東京都市大学 上野研究室

３．地域課題投稿体験・課題の「見える化」事例紹介セミナー

クラウドファンディングとスキルマッチング機能を備えた市民参加型の地域課題投稿・共有の仕組み「LOCAL GOOD YOKOHAMA」の解説と体験や、課題の「見える化」をおこなうインフォグラフィック・データビジュアライゼーションの紹介を行います。市民向け企画。

登壇者候補：横浜コミュニティデザイン・ラボ、アクセンチュア

ファシリテーター：宮島真希子　　協力：横浜市立大学 影山研究室、アクセンチュア

【ブース展示／セミナー・ワークショップ 14:20-15:40】

セミナー1. ツールを活用して横浜のオープンデータを支援するWS

〜みんなで発信するオープンデータ〜

横浜のオープンデータを全国へ広くアピールするために、オープンデータやその活動に関連する成果を全国へ広く発信し、次のアクションへつなげていくための方法をハンズオン形式で習得して頂くワークショップです。

「LinkData.org」「Knowledge Connector」等のオープンデータの活用支援ツールの使い方を解説します。

コーディネーター：下山 紗代子（LinkData）　　協力：一般社団法人リンクデータ

セミナー2. 社会的課題を解決するためのチームビルディングWS

社会的課題は一人の力では到底解決出来るものではありません。課題解決をするために志を同じくする人同士で効率的に推進チームを形成するにはどうしたらよいか？今後オープンデータが公開から利活用にシフトする過程で、社会的課題に対してICTを活用して解決するための中間的橋渡しが重要な意味を持ってきます。社会起業家を招いてのショートプレゼンテーションと具体的なチームビルディング手法「Vision Matching」を体験できるワークショップを開催します。

コーディネーター：東宏一（Code for Kanagawa）、他3名　　協力：Code for Kanagawa

横浜ユースアイデアソン・ハッカソンポスターション／成果発表

横浜オープンデータソリューション発展委員会が横浜市政策局との共同で、岩崎学園、東京都市大学、横浜サイエンスフロンティア高校の学生ら約100人が参加して実施した、横浜の課題解決や魅力発信のアプリケーション開発コンテストのエントリー作品のポスターセッション。

【全体共有 15:40-16:50】　＜メインステージ＞

市民と行政からのオープンデータの取り組み報告

《市民から》「市民がつくるオープンデータ」

市民参加型のオープンデータ系の取り組み（旧東海道プロジェクト、開港5都市景観まちづくり会議、震災の横浜、Wikipediaタウンなど）やガリバーマップ、大さん橋プロジェクト、しでんちゃん横浜プロジェクトなどの現状を確認し、今後の展望、要望についてディスカッションします。

登壇者候補：河北さん、嘉門さん、小池隆さん、上野研究室学生

コーディネーター：上野直樹（東京都市大学） 藤村良弘　　協力：Code for Kanagawa、東京都市大学

《行政から》「横浜市・神奈川県からはじまるオープンデータ」

横浜市の新しいオープンデータ対応のWEBサイト、横浜市金沢区・南区のLODを活用した子育て支援サイト「育なび」、中期4か年計画のオープンデータを活用した「ユースハッカソン」など、神奈川県から「旧東海道プロジェクト」などの取組を紹介します。　　コーディネーター：関口昌幸（横浜市政策局）

【セッションタイム 16:50-18:00】分科会 ＜メインステージ＋バックステージ＞

１．オープンデータ化の今後の具体的展開を考えるWS

～市民参加でつくるオープンデータ～

横浜・神奈川のオープンデータ化がどこまで何が進んだかを踏まえて、今後の展望、要望を考えます。開港5都市景観まちづくり会議、「震災の横浜」、旧東海道、wikipediaタウンなどの市民がオープンデータを作り活用する今後の展開やアイデアについて考えます。

参加者候補：Code for Kanagawa、神奈川県、市民グループ等　　ファシリテーター：上野直樹、藤村良弘

協力：かながわオープンデータ推進地方議員研究会（調整中）

２．ユースハッカソン成果の今後の展開

横浜市政策局と横浜オープンデータソリューション発展委員会は、未来を切り拓く若者の人材育成の一環として「中期４か年計画」（素案・原案）のオープンデータを活用し、若者の力で横浜市の課題の見える化や解決に向けたアプリケーションの開発など行うアイデアソン、ハッカソン、データビジュアライズソンを昨年10月から開催してきました。それらの成果発表を行い、ユースハッカソンで出てきたアプリをどのように共有し、使えるようにし、育てるかを考えます。

コーディネーター：横浜市政策局・関口昌幸

協力：東京都市大学、情報科学専門学校、横浜市立 横浜サイエンスフロンティア高等学校ほか

３．オープンデータのビジネス展開とイノベーション

～求められる都市ICTプラットフォームとは？～（調整中）

オープンデータにおいてはEU指令(2003/98/EC)の目的の1つに経済活性化が掲げられています。データが揃いつつある今、経済の活性化に向け、次のステップに踏み出すべきタイミングです。横浜・神奈川のオープンデータムーブメントを経済活性化に繋げるために必要な要素、施策について検討します。

登壇者候補：榊原@日本IBM、横浜市経済局職員 ほか

コーディネーター：深見嘉明（LODI理事、慶応SFC）　　協力：LOD Initiative

【クロージング 18:00-18:45】　＜メインステージ＞

１．パネルディスカッション・ワークショップ等報告

２．挨拶

３．記念写真撮影

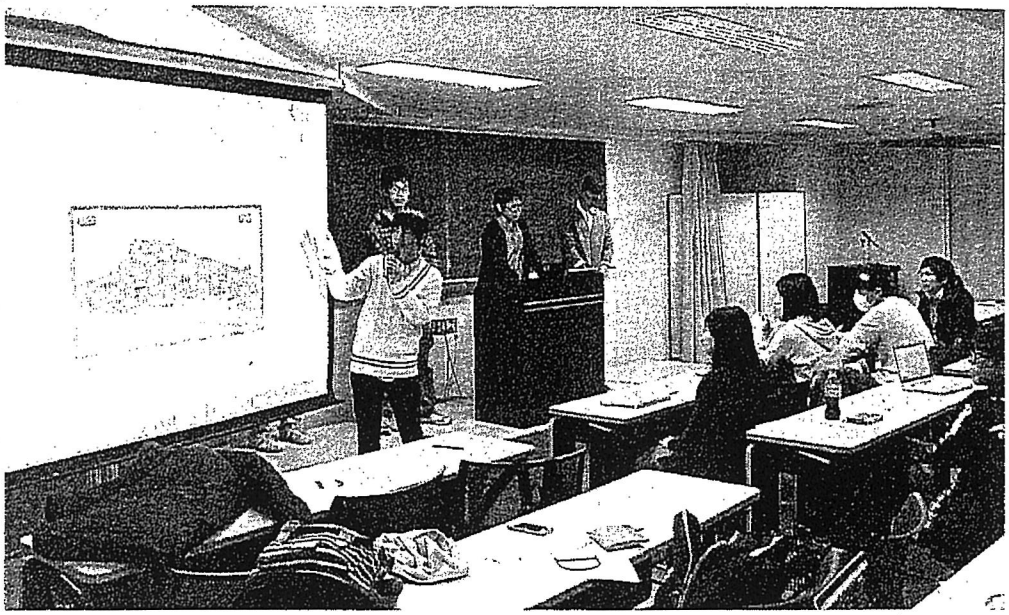
【交流会 18:45-20:00】＜バックステージ＞

※会費制の交流会　　横浜・神奈川の食材を使ったフード、ドリンクを用意する

学ぶ　育つ

横浜市の宿題　若者が挑む

市長体験アプリなど　いろいろ開発中



「ユースハッカソン」でアイデアの発表をする学生たち＝横浜市神奈川区の情報科学専門学校

2015.1.15 朝日

横浜市が抱える課題の解決に向けて、高校生や大学生がソフトウェアの開発に取り組んでいる。観光客へのアピールや市民の健康づくりなど、テーマは多岐にわたる。若者のアイデアと技術力を結集した完成品は、25日の発表会で披露される。

横浜市神奈川区の情報科学専門学校で先月21日、「横浜ユースハッカソン」が開かれた。ハッカソンとは、「活用する。うまくやり遂げる」を意味する「ハック」とマラソンを合わせた造語。開発者が一堂に集まって競うイベントを指す。

この日は、同校や東京都市大の学生、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高の生徒ら90人が参加。5～8人程度のグループに分かれ、議論をしたりパソコンに向かったりしてスマートフォンのアプリの開発などに取り組んだ。日本マイクロソフトや日本IBMなども協力した。

横浜市が公開している2014年から17年にかけて中期計画の原案をオープンデータとして活用。昨年10月以降、課題を解決するアイデアを募ってきた。「東京五輪にむけて外国人観光客に魅力をアピールする」「増えていく高齢者の見守り方法をどうしたらよいか」などの提案があった。

これらを形にする作業を1日がかりで進め、夕方には各グループの成果を発表した。

サイエンスフロンティア高2年の小堂賢斗さん(17)たちのグループは、利用者が市長になって課題を解決するアプリを発表。財政状況を考えて建物を建てることや、好き勝手な施策をすると市民からの好感度が下がってしまうといった要素を盛り込んだ。小堂さんは「題材になるようなものはないかと意識しながら街を歩くようになった」という。

情報科学専門学校の学生らのグループは、市中心部で自転車を借りられるコミュニティーサイクル「ベイバイク」の予約状況や料金を確認できるアプリの開発に取り組んだ。市民の健康づくりや、身近な交通手段の充実に役立てる狙いだ。

同校情報工学科1年の吉田渚さん(18)は「メニュー画面はシンプルすぎても、ごちゃごちゃしすぎてもダメなので、必要な情報を入れて見やすい画面にしたい」。泉真由子さん(19)も「市の計画を読んで団地の高齢化は大変な課題だと思った。同年代が作れば、若者にも興味を持ってもらえるのでは」と期待を込めた。

学生たちは現在、完成に向けた作業を進めている。作品は25日に横浜市中区の横浜情報文化センターで開かれる「横浜ユースフォーラム」で発表され、表彰も行われる。見学は無料。

（及川綾子）

高校生や大学生 アプリ作製競う

中区でコンテスト

防災や観光など横浜市の課題解決に役立てるため、高校生や大学生らが取り組んできたアプリケーションのコンテストが25日、横浜情報文化センター（横浜市中区）で開かれた。

参加チームは市の2014～17年の中期計画のオープンデータを活用し、多言語対応の観光案内や公共施設の検索ができるアプリなどを作製。アプリ開発の部門とデータを分かりやすく可視化する部門に、25歳までの若者約100人、24チームが取り組んだ。

アプリ部門で最優秀賞に選ばれたのは、市立横浜サイエンスフロンティア高校の1年生3人。「選挙の投票率アップに役立てば」と、住所から自分の投票所の検索や、選挙に関するデータを効果的に閲覧ができるアプリを作った。

メンバーの猪野湧斗（ゆうと）さん(16)は「良いプログラミングをするには技術だけではなく、広い視野を持つことが大事だと思った」と話した。

2015.1.26
朝日